

(別紙4)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1272201136		
法人名	有限会社 ツェルン		
事業所名	グループホーム・オアシス		
所在地	〒277-0004 千葉県柏市柏下2-1-8番地 (電 話) 04-7165-1212		
評価機関名	特定非営利法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成20年3月16日	評価確定日	平成20年3月30日

【情報提供票より】(平成20年3月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	22人	常勤 12人, 非常勤 10人, 常勤換算	5.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	90,000 円	その他の経費(月額)	75,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (700,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(3月11日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2	要介護2	5
要介護3	9	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 84.8 歳	最低 75 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏リハビリ総合病院・北柏ファミリークリニック・四季の里・大越歯科クリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北柏駅から徒歩圏内で大学病院等の医療機関や公共施設に囲まれ、公園や自然にも恵まれた緑豊かな場所に立地している。代表者が建築関係の会社経営の前歴を持ち建物に対する造詣が深く、ホーム長(代表者夫人)の介護先進施設での経験も取り入れ、随所にこだわりの設計や工夫が施されたヨーロッパ調の施設は快適である。隣接した菜園での収穫や花作り、近隣の住民と挨拶を交わしながらの毎日の散歩、そして何よりも生き生きとした表情で食事や交流を楽しんでいる入居者が多い。家族との連携も良く利用者家族アンケートでも「明るい職員のサービスに支えられ、家庭的な施設で訪問し易い」との声が多い。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題に職員全員で取り組んだ様子がうかがえる。「自治会に加入による地域交流の充実」や「アセスメントシートにはセンター方式の導入」等も実現した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	前回評価(昨年6月実施)から余り時間が経っていないが、19年度の自己評価表は前回の改善課題に重点を置き実施した。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	柏市の規定に沿って19年度は3回開催し、ホーム運営についての報告や今後の取り組みについて話し合った。会議に地域包括支援センター、民生委員、入居者、家族代表等の参加を得て行なわれており、その内容は後日月報で家族等にも報告している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族からの相談や苦情には担当職員、ケアマネージャー、ホーム長が対応している。家族等には入居者の日常の様子を話し情報を共有すると共に不安や問題の解消に努めている。家族の意見や要望事項は定例会議で職員に報告して改善に取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	毎日の散歩時等に近隣農家や住民と挨拶を交わし、作物を頂くなど交流を図っている。近郊の中学生の福祉体験学習生等を積極的に受け入れ、ホーム内の行事や生活の様子等も素晴らしいホームページでも公開し、開かれた施設として地域との連携に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に「おだやかな笑顔と寄り添い合える暮らしを 私たちの心で応援します」という理念を職員の共同作業で作成し、家庭的環境の下でサービスの提供を行なっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やスタッフルームに掲示し、日々職員が交代で読み上げたり会議の都度確認する等により、開設時に作り上げた理念を共有している。スタッフの行動や施設内の雰囲気からも、理念の周知が感じられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自然に恵まれた環境の下、毎日の散歩時に近隣農家や住民と挨拶を交わし馴染みの関係が出来ている。収穫物を頂いたり花作りの手ほどきをしてもらったりして日常的に交流を図っている。	○	念願の自治会への加入も実現の運びとなったので、町内会の催しへの参加等により地域との交流の広がりを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価（昨年6月実施）からあまり時間が経っていないが、自己評価は前回の改善指摘点に重点を置き実施した。全員参画による改善の取り組みをしており、意義を十分理解し活用している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	柏市の規定に沿って19年度は3回開催した。サービスの提供状況や評価への取り組み等ホーム運営についての報告や今後の取り組みについて話し合いを行なった。内容は後日月報で家族等に報告している。	○	良質のサービスを支える職員の採用や処遇問題等は共通の悩みであり、率直な意見交換の場として活用し、相互理解を深めることも有意義かと思われる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	柏市のグループホーム連絡会や虐待防止委員会（ホーム長がグループホームの代表委員を務めている）等を通じて積極的に連携を取っており、ホーム運営に関しても頻繁に相談しアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「オアシスだより」を発行しホームの催しや出来事を知らせると共に、一人ひとり個人別に健康面、生活面の状況を記入して家族に届けている。季節感にあふれ簡潔に纏められた紙面は読み易く、ホームと家族との大きな絆になっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のモニタリングや家族が来所の折には、担当職員、ケアマネージャー、ホーム長が対応し、入居者の日常の様子を話すと共に要望や相談を受けている。家族の意見や要望事項は定例会議で職員に報告して改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所当初から主要職員の異動は少ない。職員の家庭の事情等に配慮し、出来るだけ永く継続できるよう心がけている。異動は利用者に極力早目に伝えとる共に掲示や手紙で家族にも知らせている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤者、パートタイマーを問わず、スキルアップ支援の為、県の資格取得や市内の研修等に可能な限り参加できるよう配慮している。ホーム内では実地指導（OJT）により介護技術や調理等のノウハウがよく継承されている。	○	個人別に育成目標を示し資格取得やスキルアップを支援する一環として、研修等に参加させることを推奨したい。目標到達の成果を給与や手当等にて反映させると一層職員の励みになると思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会の職員同士の交流会があり積極的に参加している。討論会や他ホームの見学会にも毎回参加して相互交流による職員の研鑽につとめている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	2泊3日の体験入居を通して本人や家族の意向や希望を受け止め、生活習慣や環境の違いによる不安を取り除き他の入居者の輪の中に入れるよう配慮している。他の入居者からの歓迎の言葉が何よりの不安解消につながっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人と共に過ごししながら、本人の能力や得意分野を引き出している。身体に残存能力も発揮できるように、お互いに無理のない程度に支えあう関係を築いている。人生の先輩としての入居者からの知恵も得ながら共に支えあっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの希望や意向を日常の暮らしの中から時間をかけて把握していることが日誌にも記載されている。アセスメントにはセンター方式を取り入れ本人本位の生活支援をこころがけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回開催のケース会議はホーム長、管理者、担当職員が参加して行なわれている。会議では本人の現況報告とともに、家族の意向も反映し、できるだけ多くの関係者の意見を取り入れて介護計画作成を行なっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケース会議で状況に応じて介護計画を見直している。入居者の日常の様子等から、変更の必要が生じた場合にはすぐに関係者と話し合いの上、現状に合った新しい計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの立地の条件を活かし、地元中学や、障害者施設との交流が頻繁で、入居者は楽しみにしている。又、地域住民からの介護相談には快く対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院には担当職員が同行し、治療情態を把握するするとともに今後の治療方針についての説明も受けている。又、当ホームには月2回ホームドクターの訪問診療や毎週1回の歯科検診もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで対象者が居ず、入居時に話し合いもしてこなかったため、ホームとしての取り組みは検討していない。	○	開設から5年が経過していることから、入居者の重度化やターミナルケアについてホームとして検討課題としていただきたい。尚、話し合いにはホームドクターや入居者家族などの参加をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の日常生活支援においては常に、尊厳を重視しプライバシーや羞恥心に配慮した言葉遣いや介護をしている。又、個人情報保護の趣旨は契約書に記載するとともに玄関や事務所内等目につき易い場所に掲示し、職員とは誓約書を交わし徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本人のやりたいことを自分の力で出来るようペースや体調に合わせて支援し、一日をどう過ごしたいかの希望も取り入れた支援をしている。これはホームで最も大切にすべき点と考えて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、隣接の菜園で栽培した無農薬野菜を使い季節感を大切にしている。「安全で添加物を使わない食品、三食完全手作り、温かいものは温かく」をモットーにユニット別の献立にしている。準備、片付けは可能な入居者も職員と一緒にこなしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日が基本であり、本人の希望やタイミングに合わせてしている。風呂場は明るく清潔で安全にも配慮され、入浴が楽しめるよう配慮してある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の趣味や得意なことを家族から聞いたり、本人の日常の生活から引き出して支援をしている。自由な時間には刺し子、紙芝居、園芸、短歌作りなどを職員、ボランティアスタッフとともに楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝ホーム周辺の散歩は欠かさず行っており、歩行困難だった入居者が歩けるようになったとの家族の声が多い。全員が車で遠出の外出は月1～2回だが、個人的な外出には積極的に支援し職員も同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には施錠はしていないが、無断外出する入居者がいるユニットはやむを得ず表玄関のみ施錠している。玄関以外の中庭、各部屋、はき出し窓などは施錠していない。	○	大きな鈴や、テレビモニターも設置しているので今後の効果を期待する。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回消防署立会のもと昼間の避難訓練を実施している。防災の研修も消防署指導のもとに行い、避難、救助のマニュアルや職員、入居者家族との緊急連絡網も作成されている。	○	自治会の加入もできたことから、地域との連携や協力を得た、防災への取り組みをお願いしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い調理に心がけ、個人別に量や固さを調整し、水分補給は定期的に量を計測し記録をしている。食堂、リビング、談話コーナーにも自由に水分補給ができるように工夫してある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出入り自由な広い中庭を囲んだ居室のレイアウトは採光も良くモダンで開放的である。臭いやトイレの場所等にも細かく配慮され、どの部屋からも外の季節が感じられる。茶の間の談話コーナーも3か所もあり入居者が自由に歓談ができる工夫がしてある。随所に花が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	約八畳の居室には本人の使い慣れた家具や、愛用の品物を持ち込み、家族の写真を飾る等入居前の生活とあまり変わらぬ配慮をしている。仏壇の持ち込みも許可している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。